

米軍基地関係特別委員会記録
<第1号>

令和元年第4回沖縄県議会（定例会）閉会中

令和元年9月6日（金曜日）

沖 縄 県 議 会

米軍基地関係特別委員会記録<第1号>

開会の日時

年月日 令和元年9月6日 金曜日
開 会 午前10時0分
散 会 午前11時51分

場 所

第4委員会室

議 題

- 1 軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立
(米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故について)
- 2 米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故に関する意見書及び
抗議決議の提出について(追加議題)

出 席 委 員

委 員 長	仲宗根	悟 君
副 委 員 長	親 川	敬 君
委 員	山 川 典 二	君
委 員	花 城 大 輔	君
委 員	末 松 文 信	君
委 員	照 屋 守 之	君
委 員	宮 城 一 郎	君
委 員	照 屋 大 河	君
委 員	新 垣 清 涼	君

委員 瀬長 美佐雄 君
委員 渡久地 修 君
委員 當間 盛夫 君

委員外議員 なし

欠席委員

金城 勉 君

説明のため出席した者の職・氏名

知事公室長 池田竹州 君
基地対策統括監 金城典和 君
参事兼基地対策課長 溜政仁 君

○仲宗根悟委員長 ただいまから米軍基地関係特別委員会を開会いたします。

本委員会付議事件軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立に係る米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故についてを議題といたします。

本日の説明員として、知事公室長の出席を求めております。

米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故についての審査を行います。

ただいまの議題について、知事公室長の説明を求めます。

池田竹州知事公室長。

○池田竹州知事公室長 池田でございます。よろしく申し上げます。

恐縮ですが着席して説明させていただきます。

ただいま議題となっております米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故について、県の対応を御説明いたします。

8月29日16時55分、沖縄防衛局から令和元年8月27日火曜日17時30分ごろ、

沖縄県東海岸沖約 8 キロメートルの海上にて、普天間飛行場所属の米海兵隊 CH53E の窓が落下したものの連絡がありました。

普天間飛行場所属の CH53E については、去る 6 月に浦西中学校のテニスコートにブレードテープを落下させる事故を起こしたほか、平成 29 年 12 月には普天間第二小学校の校庭に窓枠を落下させる等の事故が多発しています。事故が発生するたびに米軍は、徹底的な点検と事故の再発防止策を講じたとしておりますが、今回、同様の事故が起こったことは、米軍の再発防止策が極めて不十分なものであると言わざるを得ません。

事件・事故の発生時における通報体制について、県は日米両政府及び米軍に対して速やかに通報することを、機会あるごとに求めているところですが、今回の事故の第 1 報は、発生から 2 日後の 29 日に行われており、強い憤りを禁じ得ません。

県は、再びこのような事故が発生したことを重く受けとめ、事故を覚知した翌日の 8 月 30 日に、謝花副知事から外務省特命全権大使沖縄担当及び沖縄防衛局長に対して、今回の事故の発生及び通報がおくれたことに強く抗議し、同型機の運用を 1 週間停止し、その間の徹底した原因究明と詳細な説明及び実行性のある再発防止策を講じるとともに、より一層、安全管理の徹底等に万全を期することを米軍に対し働きかけ、あわせて、事故発生時の連絡通報体制の検証、改善を早急に行うことを要請しました。

また、9 月 3 日に謝花副知事が上京し、原田防衛副大臣及び辻外務政務官に対し、翌 4 日に基地対策統括監から海兵隊政務外交部長に対し同様の抗議・要請を行いました。さらに、昨日、来庁された岩屋防衛大臣に対して、玉城知事からも抗議を行いました。

このような事故が発生するのは、住民生活に隣接して普天間飛行場があるがゆえであり、政府は、普天間飛行場周辺住民の生命・財産を守ることを最優先に、辺野古移設とは関係なしに、普天間飛行場の早期の運用停止を実現するよう強く求めたところであります。

以上で説明を終わります。

御審査のほど、よろしく申し上げます。

○仲宗根悟委員長 知事公室長の説明は終わりました。

これより、米軍 CH53E 大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故についての質疑を行います。

なお、質疑・答弁に当たっては、挙手により委員長の許可を得てから行い、重複することがないように簡潔にお願いいたします。

質疑はありませんか。

末松文信委員。

○末松文信委員 事実関係を少し確認したいんですけども、この沖縄本島東海岸から約8キロという説明でしたけれども、これは、どこから確認されたものですかね。

○溜政仁参事兼基地対策課長 御説明いたします。

防衛省、沖縄防衛局の説明で米軍側は、沖縄県東海岸沖約8キロにおいて、普天間飛行場、CH53Eの窓を落下させたという説明がございました。

○末松文信委員 これは米軍からの報告ということによろしいですか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 米軍側が沖縄防衛局に説明したということで承知しております。

○末松文信委員 8キロというんですけども、その位置的なことは確認されるんですか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 この辺につきましても防衛局を通して米側に確認しているところですが、まだ回答はございません。

○末松文信委員 じゃあ落下地点っていうか、そこはまだはっきりしないということですね。

○溜政仁参事兼基地対策課長 はい、そういうことになります。

○末松文信委員 ありがとうございます。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

渡久地修委員。

○渡久地修委員 まずこの窓を落下させたCH53Eというのは、普天間第二小学校に窓を落下させた機体と同一機体ですか。その辺は確認されてますか。

○仲宗根悟委員長 休憩いたします。

(休憩中に、執行部から質疑の趣旨の確認があった。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

金城典和基地対策統括監。

○金城典和基地対策統括監 お答えします。普天間飛行場所属のCH53Eという同型機ということまでは確認されてますけど、これが同じ機体かどうかまでの確認は今されてない状況です。照会中です。

○渡久地修委員 この前の浦西中だった。あの事故起こしましたね。あれとはどうですか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 今、米側に対して機体のシリアルナンバー等確認しているところでして、ですので、まだ詳しい状況わかっていないということです。

○渡久地修委員 これは僕はとても大事な問題だと思うわけよ。12機あって、これが事故を起こしているものがね、同じ機体なのか。あるいは、別々の機体なのか。どっちでも大問題なんだよ。同一機体だったらさ、もう繰り返してる。そうでなかったら、広範囲にそういうものが、老朽化が進んでるということの証左だと思うので、曖昧にしないで、徹底して県として求めるべきだと思うんですけどどうですか。

○池田竹州知事公室長 先ほど課長からもありましたけども、私どもも、そこら辺は重要だと考えており、シリアルナンバーの確認を引き続き強く求めてまわっていきたいと思っております。

○渡久地修委員 私はこのCH53Eというのは、老朽化、老朽化している大変危険なヘリだと思うんですけど、県の認識はどうですか。

○金城典和基地対策統括監 お答えします。今現在、配備されてるCH53Eのほうですけど、初飛行が1974年になっております。また運用開始が1981年と、大分長い期間運用されてます。

一方、自衛隊においては、2年前ですか。既にあのCH53Eの退役をやっております。ですから、県としても大分古い機体ということは認識しているところでは。

○**渡久地修委員** 僕が聞きたいのは、古い機体というのはわかってるんだけど、老朽化してるという認識ですか。

○**金城典和基地対策統括監** 機体の老朽化といった場合に、いろいろと捉え方があると思います。一般的に飛行機の場合の耐用年数っていうのは、年数というよりも飛行時間。

例えば、CH53Eであれば6000時間とか、また、最近の情報によると、米海兵隊については1万時間近く運用時間を延ばしているということが一応発表されています。

その中で、どれぐらいこう運用されてるかというのが、わからないとちょっと今の判断はできないかと。いろんな情報をちょっと集めていかないと、老朽化が進んでるかどうかっていう判断が、ちょっと難しいということで考えています。

○**渡久地修委員** 統括監、これ、僕おかしい。

僕ら月曜日、防衛局にね、抗議に行ったのよ。そのときに管理部長—管理部長はね、はっきりと老朽化してるということを認めたのよ。40年から50年たっていて老朽化していますということは、管理部長がちゃんと認めたんだよ。老朽化してるということで。だから県民の命と安全を守る県が、やっぱりそういう判断できないじゃない、こんな老朽化してるということを認識するかどうかで、対応が違ってくるわけさ。防衛局認めたんだよ。老朽化してるって。これ僕も確認したんだよ。そしたらはっきりと、老朽がある、40年から50年たって老朽化してますと。これ大問題だと思うんだよ。やっぱり県も認識、改める必要があると思うんですけどどうですか、公室長。

○**池田竹州知事公室長** 四、五十年たってるっていうのは先ほど統括監が説明したとおり、事実かと思います。一方で、私どもも米軍の訓練あるいは飛行については、安全が最優先というのは当然の前提だというふうに考えております。老朽化してる部分があれば当然そこはきちんと対応していただく必要があるというふうに考えております。

○渡久地修委員 このCH53Eの老朽化についてなんだけど、使用率というの、使用率。それはわかりますか。

○金城典和基地対策統括監 渡久地委員からの質疑は、CH53Eに係る稼働率、使用率の件だと思いますが、今私たちが一応手持ちで持ってる資料といたしましては、2017年にヘリテージ財団の報告書のほうからなんですけど、2016年12月31日現在、海兵隊の固定翼機、回転翼機のわずか41%が飛行可能と考えられるという報告がございます。

○渡久地修委員 これ海兵隊の航空機全体なんだけど、CH53E-Kとかオスプレイとかもあるはずなんだよね。その辺は掌握してませんか。

○金城典和基地対策統括監 CH53Eの稼働率について私たちもちょっと調べてみたんですけど、その資料が見つけれなくて、今海兵隊全体の稼働率の数字を一応報告したいと思います。

○渡久地修委員 37%という話もあるんだけどね、ぜひこれ調べてください。いずれにしても、航空機全体で41%、半分以上がもう使用不能であるわけよ。6割以上が使えない。そういうね、大変な老朽化してるものを使ってる。それと事故率わかりますか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 済みません、今把握できてないです。

○渡久地修委員 ぜひこれも把握してくださいね。これ、事故率も、非常に海兵隊の中で一番高いとも言われてるわけよね。こんなのが飛んでるということはね、大変なことだと思います。

ヘリテージ財団が指摘している、なぜ41%とか、そういうものになってる理由ってというのは、何て書いてありますか、指摘してますか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 当時の新聞情報になるんですけども、報告書によりますと機体の老朽化と飛行時間が削減、削減されることが組み合わせられると、人員、人的なエラーと、機械的エラーの両方による飛行中の事故の危険性が高まると。事故多発の可能性にも言及しているというところからそういうことが、原因なのかなと考えられます。

○渡久地修委員 統括監、公室長、アメリカでも老朽化と指摘してるわけよ、老朽化。それとね、なぜこんな使用率が低いのかといたらね、稼働率も低いのかといたら、1つは老朽化。CH53Eというのは、CH53Kに2020年に交換の予定だって、進んでない。だから、老朽化している。そして整備、整備不足。整備士不足とか指摘されてますよね。そういったのが重なってね、事故が、続いているわけよ。だからこれはこんな老朽化したものが飛んでるということ自体ね、大問題だと思うんですよ。そこをしっかりと押さえないといけないと思います。それと、このCH53E 12機は、普天間基地所属ですか。

○金城典和基地対策統括監 防衛局を通しての報告によりますと、普天間飛行場所属の海兵隊CH53Eという報告がございます。

○渡久地修委員 その運用する部隊はどこ所属。

○金城典和基地対策統括監 普天間飛行場に配備されてる第462海兵重ヘリコプター飛行隊ということの所属と報告を受けております。

○渡久地修委員 だから、この部隊は普天間飛行場所属なの、それともほかのアメリカ本国の所属なの。

○金城典和基地対策統括監 普天間飛行場にはCH53Eについては、今現時点12機配備されてるといふふうに理解しております。

この12機なんですけど、いろいろ、米軍の配備のほうを確認いたしますと、UDPと呼ばれてますけど、部隊配備プログラムということで、その部隊は、6カ月当たりのローテーで配備されているということは確認しております。

ただそのときにちょっとまた確認ができていないのが、そのヘリも、機体も一緒に配備されるのか、それとも部隊の隊員だけが配備されて、機体はずっと同じものを使ってるかということまでがちょっと確認できていない状態です。これが多分先ほど言われてた機体番号、これを確認すると、常時配備されているのか、それとも入れかわってるかというのが多分確認できると思います。

○渡久地修委員 なかなかわからない……。要するにこの部隊というのは、アメリカ東海岸のミラマー基地所属、配備されてる部隊じゃないですかということ。

○金城典和基地対策統括監 私がいろいろ調べた中では、東海岸ではなくて西海岸、カリフォルニア近辺のその海兵隊の中からUDPということで、部隊配備をされるというふうに認識しております。

○渡久地修委員 ぜひですねこのミラマー基地からローテーションで普天間基地、そのときに航空機も一緒に回ってるのか、航空機は普天間基地所属なのか、それによっても全然違って来るからね。そこをしっかりと確認してください。

最後なるけど、このヘリテージ財団も含めて防衛局も、とにかくこれ老朽化してるということは認めてるわけよ。老朽化してる物が住宅上空、学校、病院上空を飛び回るといことは、こんな危険な物ないわけよ。これはね、ほっておくとね、また落ちる危険がある。事故を起こす危険がある。だから、皆さん方は1週間の飛行停止と言ったけれども、こういう老朽化した物はね、1週間の飛行停止じゃないよ。即刻、もう飛行禁止すべきなんだよ、こういう物は。老朽化してるんだから。みんなが認めてるんだから。そこはもっと踏み込んだほうがいいんじゃない。CH53Eは即飛行停止させろということをやらないと、これ本当に人身事故が起こってからは遅いよ。どうですか公室長。

○池田竹州知事公室長 先ほども冒頭で説明させていただきましたが、沖縄だけを見ても、窓枠の落下が2年前に起きたり、ブレードテープが落ちたりと事故が多発してるというのは、認識しております。

今後、米側に事故の詳細な原因究明と再発防止も求めていますので、その辺も踏まえて対応を検討していきたいと思えます。

○渡久地修委員 済みません、このCH53E-Kの窓っていうのはさ、戦闘機だから、戦争に使うやつだから何かあったときにはすぐ隊員が脱出できるように、窓というのは蹴飛ばしたり中から押せば、落下してそこから脱出できるようになってるっていうのは、そこは確認していますか。

○金城典和基地対策統括監 私たちがちょっと確認した中身で言いますと、やはりそういったCH53Eが事故を起こした場合、その機体から脱出するために、そういった緊急用の脱出口にもなってるということで、任意に外せるようになっているという報告は受けております。

実際これがどういった構造なのかとか、細かいところまではわかっていないんですけど、そういった緊急時の脱出ということになってますので、外れるような、形態にはなっているという報告を受けております。

○渡久地修委員 だから、そういう構造にもなってるわけよ。そして老朽化している。そういうのが窓落下のおそれじゃなくて、もう続いているという点では、老朽化した物が飛ぶのはね非常に危険だから、即刻、飛行禁止、飛行中止をこのCH53Eについては、皆さんが求めるべきだということを指摘して終わります。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。
照屋守之委員。

○照屋守之委員 これ原因究明、今のところどういう……。

○池田竹州知事公室長 私ども、その原因も含めて照会しているところですが、先ほど冒頭で読み上げた以上の情報がまだ、防衛局、米側から入ってないところでございます。

○照屋守之委員 以前学校に窓が落下した事案がありましたよね。あれの原因はどうなっていました。

○池田竹州知事公室長 ちょっと記憶の限りでは、窓枠そのものが外れるような構造に一こちら、前のほうの窓だったかと思いますが、その落下防止用のケーブルがあって、それがつながれてなかったというふうに記憶しております。

○照屋守之委員 それつながれてなかったっていう、それはその点検の不備とか、あるいは整備の不備とかというふうなものにならんと今の話にならんわけでしょ。県はどういうふうに把握してるんですか、前回の窓の落下については、原因というのは。

○金城典和基地対策統括監 平成29年12月、防衛省が、窓枠落下について、その原因について発表されております。その中身を少し私のほうからお答えします。

事故原因は人的ミスであると結論づけられた。乗務員は、飛行前点検を行ったが、窓のレバーが安全ワイヤーによって適切に固定されていないことを見落とした。窓のレバーが誤って、または不注意によって緊急脱出の位置に動かされたことによって、窓が航空機から離脱した。

本件事故は、当該機固有の問題であり、他の飛行機とか無関係であると結論づけられた、との報告を受けております。

○照屋守之委員 そうなると県は、前回のそういう落下の原因というのを把握していますよね。それと今回の件についての対応というのはどうするんですか。

前回こういう形で人的ミスでってこうこうだっているわけでしょ。今その原因究明、求めてるわけでしょ。原因というのを県は把握してるわけです。前回のね。だから原因究明を求めるだけでいいんですかって話ですよ。何で前回のものをはっきり人的なミスって、点検ミスってやってるわけでしょ。だからそこは、米軍に対して何て言ってるんですか、県は。

○池田竹州知事公室長 今回、前回と落下した部分と位置が異なるというのは今、確認してるところです。それで前回は窓枠で、今回は窓ということで、今構造も含めて米側に一防衛局通してですね、具体的な、どういった構造であるかとかいうのも含めて、説明を求めているところでございます。

○照屋守之委員 これは米軍の事件・事故が続く、その都度抗議をする、改善を求めていく、県民の生命・財産を守る、事件・事故を起こすのは米軍の責任。それを改善させるのは、やっぱり県の責任じゃないですかね。それを最近、そういうふうなものがあるね、人為的なミスがこうでしょうということがありました。これまでに一以前から言ってますけれども、水面下でさまざまな米軍とのね、意見交換なり、それから基地の問題に対する、そういうトラブルの解消というか、そこはきちっと冷静に、改善も含めて、やるべきなんでしょう。だからそういうこと、どういうことを今までやって、今回のそういう事故につながっているか。そこを説明してもらえませんか。

○池田竹州知事公室長 例えば最近、空軍兵による飲酒運転の事故が多発してたということで、その点につきましては、嘉手納基地を訪問して、外務省、防衛省ですけれども、米側と意見交換を行うなど再発防止に向けた取り組みをしております。

今回の航空機の落下事故につきましては、今、米側に原因究明を求めているところでございます。前回と同一の場所ではないっていうのもありますけれども、少なくとも2年前に窓枠が落下したということがありますので、当然我々、全ての窓について点検、再発防止がされているものと考えております。その辺の経緯も含めて、きちっとした説明を求めていきたいと考えております。

○照屋守之委員 だから、県の考えと実際起こってることは違うでしょ。この窓の落下、前回の平成29年のものがあるって、本当に人為的なミスですね、点検ミスですね、確認ミスですねっていうようなことがわかってるわけだから、そういうのきちっと前から毎回そういうふうによれば、こういう事故は本来防げるわけでしょう。それを原因究明求めてるって言って、ただ、今回の原因究明だけでは改善にならないんじゃないですか。前回のそういうのもあって、ある意味人為的ミスなんですよ、点検ミスなんですよ。これ具体的にどうやってるんですか。何でこういう事故が起こるんですか、というところまでどんどん追及していかないと。

県は議会とは違うんですよ。それを県民は、皆さん方にそういうふうなものを求めていますよ。米軍とのそういうトラブルがあるんだったらそれは解消してほしい。そこはきちっと県民の立場で、原因を突き詰めて、また類似の事例があれば、それを参考にして、それを追及して、改善させる。結局これ、全く同じような形になっていきませんか、原因は。人為的なミスだという、この機種だけの問題だという。そういうことになりませんか。どうですか。

○池田竹州知事公室長 私ども、前回もまた、今回も、飛行停止を行って、徹底した原因究明、そして詳細な説明と実効性のある再発防止策を講じる、それを報告していただくよう求めているところでございます。

私ども、普天間飛行場そのものにつきましては、運用停止を強く求めている面もございます。そういったところも、政府においてきちっと受けとめていただきたいというふうに考えております。

○照屋守之委員 ですから、再発防止策といっても、これまでずっとそういうふうなことで、事件・事故が続いてきたわけでしょう。再発防止策をここから逆に提案してもいいんじゃないですか、県が。毎日点検してますか、何時に点検してますか、誰がやってますか、というところまでやらないと、全く、堂々めぐり、全く同じことです今やってるのは、ずっと。こういう事故起こる。日常的にその日米のそういうふうな意見交換もしながらやってくださいよって言うても、やってないでしょ。トラブル起こったら抗議をする。我々議会はそれでいいですよ。皆さん方はそうじゃないでしょ。日常的なそういうふうな意見交換ってやってますか。繰り返し繰り返しもう我々、皆さん方も提案して、日米、県、連携して取り組みしていただきって言うてるのに、どうなってるんですか、これやってますか。

○池田竹州知事公室長 先ほどもちょっと説明しましたけども、状況に応じて、例えばG7あるいは嘉手納基地、そういったところとの情報交換を行っております。

○照屋守之委員 必要において情報交換を行うからそういう、なくならんわけでしょう。そうすると具体的に、私は外務省にも防衛局にも言っていますよ。沖縄県も入れて、交えて、米軍も入れて、そういう改善策を得るよう日常的なものをやってくださいよと。皆様方が積極的にやるべきでしょうこれは。

だからそういうふうなことを県がやらない限りは、全く同じようなトラブルが起こってね。原因究明やってますっていう、おかしな話ですよ。

このへりも老朽化しているとわかりながら、それに対して何の改善も求めない。どうなんですか。

○金城典和基地対策統括監 9月4日になりますけど、私のほうで海兵隊に対して、抗議、要請を行っております。その際に私のほうから、先ほど渡久地委員からも、老朽化という話があったんですけど、このCH53Eについては、配備からも相当数の年数がたってる。それは県として理解していることをお伝えしました。

その中で、私たちがふだん使ってる車と例えて私お話ししたんですけど、何年もたてばたつほど、そういった日ごろの点検整備が重要になってくると。ですから、配備されてるCH53Eについても、相当年数がたってることを理解しているから、もっと、細かい点検、日常的な点検を重点的にやってくれという要望はしております。

○照屋守之委員 要望してても、なかなかそれができてないっていうのが実態ですよ。だからさせないといけませんね。日常的な点検もね。そこをどうするかですよ。今までは求めている、なかなかそれができなかった、じゃあどうするんですかって話ですよ。

我々はそれさせないといけないんじゃないですか、特に県は強く求めて。前からですから、そういうトラブルのたびごとにこういう議論やってますけど、より具体的なものを提示して、それを実行させて、それを実際やってるのか、やってないのかっていうところまで日常的にやっていかないと、そういうふうなトラブルはなくなりませんよ。だって、日米安全保障条約、それを認めてさ、今の知事も、米軍の駐留を認めてるわけでしょ。

県民は、事件・事故がなくなる。ない状況、これが一番いいわけですよ。

だからそういうふうなトラブルが頻繁に起こって、県がなかなか対応できてない。我々が対応できてない部分。だって老朽化した機種は変更してもいいんじゃないですか。そういうのを求めたことがありますか。機種の変更とか、どうですか。

○池田竹州知事公室長 老朽化した機種そのものの変更というよりも、私ども、普天間飛行場の5年以内の運用—まあそれ期限過ぎてますので、できるだけ早期の運用停止そのものを求めているところでございます。

○照屋守之委員 ですから、早期の運用停止求めている何年ですか。これがいつ実現するめどあります。我々議会もそれは当然求めていきますよ。求めていく間にこれ時間的な問題と、その間の事件・事故の発生する可能性ですよ。

そこは求めながらも、今ある事件・事故というのは防ぐという、努力しないといかんわけでしょ。求めるだけ。非常にこれ大きな問題があるから、なかなか進まないでしょ。進まないから、じゃあこれずっと求めていく、求めていって言って、5年も10年もまたたって、またまたこういう事件・事故が起こる。そこは我々求めていくんだけど、同時に、今あるトラブルを防ぐというのも今、我々に課せられた責任じゃないですか。だから古い機種だったら、じゃあかえたほうがいいんじゃないかというのは、これは、ごく当たり前のことじゃないですか。それによって、事故の確率が減っていく。機種が新しくなれば、米軍だっていい、あるいは県民だっていいという話になるわけでしょ。

何でこんな何十年も使ってるものをさ、飛んでいて、今先ほど指摘あったように、厳しいという状況がわかりながらね、機種の変更を求めるというのは、これ方法としてはどうですか。

○池田竹州知事公室長 機種 of 更新については、県民の間にさまざまな意見の、そういうあるものというふうに考えております。

いずれにしても運用停止を求めていますので、政府についてはそれを真摯に受けとめていただきたいというふうに考えております。

○照屋守之委員 県民のさまざまな意見があるというのは当たり前の話ですよ。ただ私が言ってるのは、現実的にそこに基地があって、ヘリがあって、沖縄に基地があってですよ。そこから発生する事件・事故がある。それをどう防ぐのかという、今現在の問題ですよ。さまざまな意見、それは十分わかってま

すよね。ありますけれども、この事件・事故を防いでいく、なくしていくというのを考えるのが、今もう一つの大きな課題じゃないですか。

だから古い機種だから、新しいのにかえたほうがいいんじゃないかっていうのは、これごく当たり前の話じゃないですか。どうですか。

○池田竹州知事公室長 新機種にかえるかどうかにつきましてというよりも、私どもはとにかく危険性を少なくするためには運用停止、そして、それまでの間の暫定的な措置として、長期ローテーション配備、県外・国外へと求めているところです。そういった形で実際に、ここに沖縄にいる機数が減れば、当然リスクも減っていくというふうに考えております。

○照屋守之委員 ですから長期的なローテーション云々の話をしているわけじゃなくてね。今現実的に基地があります。トラブルが発生してます。こういうものについて、抜本的に改善できるようなものを、本当に県がより具体的に説明して、我々はそれを後押しをしてやっていく。そういう仕組みにならんと、こういう事件は、なかなか事故は防げないと思いますよ。

原因がわかりながら、そこに、何の手当ても講じることができない。米軍をチェックすることもできない。というふうな仕組みが今あって、事故が起こって、その抗議、再発防止ということだけでは、なかなか改善ができないと思いますけどね。以上です。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。
休憩いたします。

(休憩中に、渡久地委員からCH53Eの稼働率を38%から37%に訂正した。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。
ほかに質疑はありませんか。
當間盛夫委員。

○當間盛夫委員 ちょっと簡潔に。

今回、東方沖の海上8キロっていうことで出てはいるんだけど、これ誰がどう確認できたということなんですかね。

○池田竹州知事公室長 先ほど読み上げのところでも言いましたけども、29日に防衛局から一米側からの連絡という第一報でそういう報告がございました。

一方で、その翌日30日に同じく防衛局のほうから、通常訓練実施後に、普天間飛行場に帰投後、後方の窓が遺失してることを発見したという報告も、そのあと翌日来ております。

今、実際にどこで、紛失の状況とかは、改めて防衛局を通して米側に確認を求めているところです。

○當間盛夫委員 ということは、窓が海上に落ちたかどうかも定かではないし、落ちた窓が回収されたということでもないということなんですか。

○池田竹州知事公室長 現時点で米側は被害の報告はないという、連絡はありますけども、回収そのものについてはちょっとまだ連絡を受けてないところでございます。

ただ仮に、帰投後に発見したというのが事実であれば、海上で落ちたのかどうかっていうのも含めてですね、きちんと落下場所については、改めて検証が必要だというふうに考えております。

○當間盛夫委員 防衛省は、海上に落ちたから何でもないということで自肅要請をしないのか、沖縄だから仕方ないということでの自肅要請をしないということなのか。皆さんの認識としてはどうお持ちなんですか。防衛省の対応よ。

○池田竹州知事公室長 飛行停止につきましては、被害がないことを理由に求めないというふうに防衛大臣がコメントされていたかと思えます。

私どもとしては、被害が出てから飛行停止を求めるということは、もう到底納得できるものではないです。県民の生命を第一に考えるのであれば、被害が出る前、そういった事故が起きた以上、飛行停止して、徹底的に事故原因の究明と再発防止策を講じ、今後の被害を未然に防ぐことが重要だと考えております。

○當間盛夫委員 どこに落ちたのかもわからないのに、被害がないからという考え方自体が、どうなのかなということもあるし、皆さんがその辺をどういうふうな形で、防衛省とのやりとりの中をやってるのかもちょっと不透明でもあるんですけど。

この通報体制っていうのがありますよね。こういう事件・事故とかがあると、

沖縄県に通報するというところで、いろいろとシステムの的に合意をしてると思うんですけど。何で今回こういう形になってるんですか。何か不備で今回のような一合意があるはずなのに、今回のようなことになるんですか。

○池田竹州知事公室長 今、1997年、平成9年の3月に日米合同委員会の合意で、在日米軍に係る事件・事故の通報手続というのが定められております。その中で、墜落、投棄、危険物の落下など航空機に関する事項というのが、通報対象とされてます。防衛局への通報も当然、遅かったということで、今、防衛局のほうもその点については抗議をして、なぜそのようになったかという報告を求めているところでございます。

本来、米側が覚知し次第、防衛局としても県にも県民にも連絡があるべきというふうに考えております。

○當間盛夫委員 米軍側を通して今回の、今回のこの落下の物はそう重要視をしてないという認識でいいですか。

○金城典和基地対策統括監 お答えします。通報が事故の2日後になった理由について、私たちも確認いたしました。

そこで沖縄防衛局のほうからなんですけど、まず事故発生の翌日、27日の翌日の28日には、防衛本省を経由して、在京の米国大使館の情報として米側から情報を得ていたと。1日後です。その際、情報に不明な点が多かったことから、運用者である在沖米軍にその事実を確認する必要があったと。そういった確認のために、県への報告がさらに1日、トータルで事故から2日後になったという説明を受けております。

○當間盛夫委員 この体制的なものが、米軍と県の今の状況をあらわしている部分もあるだろうし、米軍と防衛省の今の関係をあらわしているところもあるなということにね、僕らもそう思わざるを得ないというところもあるんですけど。

県として、先ほど金城さん、いろんな意味で私は、車何年もって言うんだらうけど、渡久地委員の指摘のとおり、皆さん、県としてはね、もう老朽化をする、老朽化をしてるということをしっかり明確に出すべきよ。車は例えて云々じゃなくて、やっぱり老朽化してるものを、どうあるべきかということをやっぱり明確に出すべきだというふうに思いますし、このことは、間違いなく、以前から人員不足だとか、整備のそういう不足だけで、いろんな問題が指摘され

ているんだろうけど、これがどう改善されたかっていうのは、皆さん把握されてるんですか。

防衛省を通じてでも、この整備の予算の削減の中で、整備のあり方がどう変わりましたとか、人的に変わりましたんだとか、予算的な規模がこういう部分でのものが、オバマ、今回のトランプ大統領にかわってね、指摘されている部分でのものが、こうかわりましたというようなものを皆さん把握してるんですかということよ。

いや、やってないんだったらやっていないでいいんですよ。

○金城典和基地対策統括監 今、當間委員の御質疑のある、例えば予算のあり方とか、人的な配備、それと実際の整備状況。そういった具体的な米軍の状況について、県のほうから米軍のほうに確認は今のところやってない状況にあります。

○當間盛夫委員 これはね、公室長、ちょっと指摘で終わりますけど、皆さんが辺野古を反対する部分と、今、既存にある米軍基地のそういう事件・事故をいかに減らすかという部分というのは別個に考えてやらないと、このことは、もう常に皆さん米軍と意見交換をしながらでも、先ほども照屋委員が指摘するように、皆さんそのことも、いかにその米軍を含めてね、やりとりをするということを持たないと、何かごっちゃになってしまってさ、辺野古とその沖縄の基地被害の部分が一緒ではやっぱりだめだよ。

辺野古は辺野古で、皆さん、県全体として持つべき部分と、しかし、皆さんがやるべきものっていうのは、その基地の基地に対する部分をいかに軽減するかということが大事なわけであるだろうから、皆さん全くね、今、きょうこのことを我々軍特開いても、皆さん全くその意思疎通もないし、防衛省とのそういうやりとりもないし、あなた仕事何してるのと。ただ辺野古のことだけやってるのかということ指摘されても、仕方ないよ、その辺は。

もう少しそういったメリハリつけて、分けて、県民の生命の安全—安全・安心ね、そういう財産をいかに守るかということもやっぱりあるわけだから、そのことをしっかりとやるべきだというふうに思ってますので、これ答弁要りませんから、以上です。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

宮城一郎委員。

○宮城一郎委員 よろしく申し上げます。

今の質疑と答弁のちょっとやりとりを聞く中で、私自身でちょっと確認させていただきたいのがあるんですけど、第二小学校に落ちたものは、窓枠一窓もくっついてましたけど、先ほどおっしゃられたように、着脱式で外れた場合には、落下しないようにワイヤーがその防止策として施されているということでした。

今回は、窓枠ではなくて、窓が落ちたというところで、プラスチック製で、恐らくとっかかりがどこにもないようなものなんじゃないかなというところで、ただ金城統括監が、こちらこの部分についても着脱が可能であるというふうに情報を得ているということだったんですが、そういうこの窓だけが着脱可能で、それを落下を防止する施してというのが、防止策ってというのがなされてるかどうかというの、確認できていますでしょう。

○金城典和基地対策統括監 たしか委員がおっしゃるように、普天間第二小学校に落ちた窓については、たしか運転席の右側の金属製の枠にプラスチックでしたか、それがはめられて、その枠自体が外れて落ちたと。そのときにワイヤーが予備についているはずなんですけど、それがくっついていなくて、そのまま落下したという経緯があったと理解しております。

今回、私たち報告受けてる中では、窓枠というのは何かついてない、ただの大きさ的にいうと大体58センチ、それと47センチ、重さが約1キロで樹脂製の窓だというふうに報告を受けております。

ただ、実際いろいろちょっと調べてみたんですけど、これが構造的なもので、先ほど委員がおっしゃったみたいに、窓枠的なものにくっついてるのか、それともを押したときにすぐ落ちる簡単な装着になってるのか、この辺がちょっと確認がとれなくて、構造的なものについてはちょっと今、情報を持ち得ていないという状況にあります。

○宮城一郎委員 今回のケースにおいて、この外れた際の落下防止策っていうのがある、ないっていうのは、とても確認しなきゃいけないこととして大変重要なことだと思うんですね。

これが、防止策がない機種が12機も空を飛んでいるのか。あるいはこれはCHに限ったことではなくて、普天間飛行場に配備されてる、AHですとかUHですとか、あるいはオスプレイもまたしかり。さまざまな機種において、同様の防止策がないものが飛んでる可能性もあるということだと思うんですね。その場合、これまでお話を聞いてると、今回のケース、今回の機種について、調

査を進めていくということなんです、場合によっては普天間飛行場、ないしは沖縄県に配備されている全機種について、これは構造上の問題であれば、全部確認しなきゃいけないんじゃないかなと思うんですね。

ですから老朽化が問題だとか、そういう次元をもう超えてしまって、沖縄の空には危険な物が、もうバンナイ飛び交ってるという可能性もあると思うので、調査の内容については、かなり広範に広げて、深く追求しなければいけないと考えておるんですけど、どうでしょう。

○池田竹州知事公室長 今、委員のおっしゃるように落下防止対応が、もしとられてないような物があれば、当然、それは非常に問題だと考えております。当然、それがヘリコプター—私どもちょっと航空機の専門家ではありませんのでヘリコプター、ほかの機種にも共通するのであれば、やはりそれも問題だというふうに考えております。その辺は調査結果も踏まえてですね、ほかの機種についても同様な構造がないのかは、あわせて照会していきたいと思っております。

○宮城一郎委員 その調査の行方なんですけども、ここまでの話—過去の話も聞いてると、必ずしも防衛局ないしは米軍のほうから、万全の協力を得られないという状況もあるかというふうに思います。その場合なんです、県は例えば、海外に地位協定の調査などで行ったりすることもあると思うんですが、場合によってはこういうものに関して、同型機種を配備している他国の軍隊、あるいはボーイング社なのか、ダグラス社なのかわからないんですけど、メーカーさんのほうにまでですね、調査を広げて、この対象機種、沖縄にある機種が、どういう構造になってるかっていうのを、仮に日本政府、あるいは米軍から協力が得られなくても、突き進めていくような努力をしてほしいなというふうな考えを持っています。いかがでしょうか。

○池田竹州知事公室長 事故の再発防止につきましては、本来かなり専門的な知見も必要かと思えます。他国の調査を行うこともちょっと、今後検討していきますけれども、まず米側の再発防止策につきまして、国内航空事故の発生の際に検証する航空機事故調査委員会など、専門的な知見をお持ちの方々も多数いらっしゃいます。米側の再発防止策について、それをきちっと検証していただくような機会、それをまた公表した上でやるっていうことが、私ども必要ではないかと考えておりました、そういったところも求めてるところでございます。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

山川典二委員。

○山川典二委員 確認ですけれども、沖縄本島東海上8キロというんですけども、大体どの辺かっていうのは、全くわからないんですか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 冒頭申し上げたとおり、沖縄防衛局からは、沖縄県の東海岸沖8キロというところまでしか情報は得ておりません。それ以上の話は今まだ来てない……。

○金城典和基地対策統括監 ちょっと私のほうで追加の情報を提供したいと思います。

また防衛局からの報告によると海兵隊、普天間飛行場に帰投した際、後方の客室の窓が消失したことを発見したようです。隊員によると、機体の客室の窓を最後に確認したときには、飛行機自体は洋上にいたと。最後に窓を確認したときには、機体は洋上にいたと。洋上から普天間飛行場に着陸したときに、多分紛失されてるといふふうに私たちは認識しております。

○山川典二委員 要するに、洋上では確認したときにはまだ窓があったということに理解していいですね。

これ、先ほどの通常訓練という言い方がありましたけれども、どういう内容の訓練だったんですか。わかりますか。わかれば教えてください。

○金城典和基地対策統括監 通常訓練という報告は受けてるんですけど、具体的な訓練の内容についての報告は受けていないという状況です。

○山川典二委員 東海上の8キロも先には、訓練海域があると思うんですが、どういうところがありますか。

○金城典和基地対策統括監 本島の特に、北部の東側になりますけど、そちらの訓練区域としては2カ所あります。アルファ区域、それとホテル・ホテル区域になります。

○山川典二委員 通常ホテル・ホテルの海域あたりではですね、空中給油であ

るとかですね、その辺が主に訓練をされるというふうに聞いておりますけども、例えばこのCHEっていうのは1.6トンから8トンぐらいの荷物を運ぶ能力を持ってるということで、つり下げ訓練とか、まあそれは恐らく近海側でやるというふうに聞いておりますけども、あれですか、今回、この一先ほど来委員の中でいろんな議論がありますが、機種のお朽化っていう話がありますよね。これ、製造されたのは、1971年ぐらいですけども、配備はですね、1980年代に入ってから配備だと思いますよね。先ほど相当年数って話がありましたけれども、大体、今、普天間基地の12機の機種がですね、どれぐらいの年数なのかっていうのは、具体的に把握されてるのか。あるいは年数とは別の次元で、稼働時間ですね、これはお払い箱になるようなものもあるんですけど、そういった数値というものは、皆さんでは把握されてるのか。

○金城典和基地対策統括監 委員おっしゃるように運用開始をいろいろ調べてみますと、1981年に配備が始まっているということは理解しております。

ただ、普天間飛行場に配備されている12機の機体なんですけど、これがいつ製造年なのかっていうのが、ちょっと不明ということで、製造年がわからないので、今、何年たっているということがちょっとはっきり言えないという状況でございます。

それと、先ほど私も言いましたけど、耐用年数というものなんですけど、一般的に航空機の場合は、何年ということより年数で区切るというよりも、運用時間、何千時間という形で耐用年数が決まっている場合が多いです。一般的にCH53Eについては、従来約6000時間という形で運用されてたようなんですけど、近年においては、いろいろ、部品っていうんですか、整備、交換の上、約1万時間に延長されたというふうに聞いております。

○山川典二委員 このCHEヘリコプターのコストパフォーマンスと申しますか。わかりますか、1機当たり幾らぐらいするのか。

○金城典和基地対策統括監 このコストパフォーマンスと申しますか、実際、雑誌等でちょっと調べたときに、導入する単価っていうんですか、そういう導入のユニットみたいな単価があるんですけど、米ドルで申しますと2436万ドル。これが1992年当時に1機当たり、2436万ドルという数字は一応、私たちのほうで把握をしております。

○山川典二委員 これはシコルスキーエアクラフトデビジョンでしたかね。海

兵隊が軍用ヘリの専門会社に発注をしてできたものですが、今、世界で一世界というのは、製造機は何機ぐらいあるか把握されてますか。

○金城典和基地対策統括監 CH53についてはいろんな型番がございます。その中で今回、事故を起こしましたCH53Eについての生産数といたしましては、115機という数字を一応把握しております。

○山川典二委員 115機製造して、先ほど2400万ドル余りですか。1機当たり私の情報ではですね、いろんなハイテクの機器なんかも入れて、大体1機当たり平均で30億円ぐらいだというふうに聞いておりますが、そのうちですね、今どれぐらい稼働しているのかっていう一私の情報なんですけども、半分もないって言うんですよ、実際はね。稼働してるのはですね。そういう中で、今、沖縄にその12機が配備されている。

それで、これまでのあれですか、CHE含めてヘリのはですね、落下。部品落下事故というのは、件数として何件ぐらいありますか。そしてついでに、在沖米軍用機の部品落下事故もあわせて、わかれば教えてください。

○金城典和基地対策統括監 まずCH53ヘリの事故についてです。復帰後から、ことしの8月31日までの事故の件数につきましては、まず墜落が4件、不時着が15件、部品落下等が10件、その他が8件。合計で37件となっております。

一方、米軍機全体になりますけど、米軍機からの部品落下、これは昭和47年からの全体数になります。合計数で72件、固定翼機が45件、ヘリコプター等が27件ということになっております。

済みません、ちょっと数字の御説明をいたします。

先ほどCH53については、墜落、不時着、部品落下、いろいろな数字が37件という数字を報告いたしました。それと、全体の数について報告した、部品落下だけになりますので、一部の合計として72件、そのうち、固定翼機が45件、ヘリコプターからの部品落下が27件ということで、ちょっと比較の数字がやりにくいんですけど、CH53の場合は全体数の話で、米軍機からの場合、ちょっと今、部品落下の数字を御報告させてください。

○山川典二委員 ちょっとこれ、わかりにくいんだけど、どういうふうに理解するんですか。もうちょっと。

CH……。その他の8件というのも何ですかね。CHのその他8件というのがありましたね。今数字をちょっと確認だけ。CHでは部品落下が10件ありま

すね。その他の軍用機で17件あるというふうに理解すればいいんですか。

○金城典和基地対策統括監 先ほど、CH53Eでその他ということで8件、御報告いたしました。その内容につきましては、まず低空飛行、空中接触、あと民間地域着陸というようなものが含まれております。

それと、部品落下全体数で私、27件という報告をいたしました。それとCH53の部品落下が10件ということになりますので、CH53以外の部品落下が17件という形になります。

○山川典二委員 今その他の8件の中に民間地の着陸も入ってましたけれども、これは、先ほどの不時着とはまたどういうふうに理解をすればいいですかね。不時着が15件あるんですよね。その他の中に民間地の一着陸っていうのはこれ不時着じゃないですか。この辺のだから、内容の整理も含めてですね、皆さんがきちっと把握をして説明いただけないと。混乱するんですけどね。どういふふうな理解をしているのか。

○池田竹州知事公室長 一応、不時着につきましては、いわゆる緊急着陸、予防着陸として取り扱ってるものやっております。その他は、例えば訓練着陸場所を誤認したとか、今回の北部訓練場もその他に入るかと思いますが、いわゆる機材のトラブルがなくて、誤って民間地域におりた一まあ、すぐ飛び立ったようなケース、その他というふうにしております。

○山川典二委員 要するに何らかの原因一機器の不備とかそういうもので不時着したのが不時着で、それ以外の誤認とかそういうものはその他と。しかし通常は、基地から出て基地に帰るのが通常ですよね。ところが誤認も含めてこれは、その他でいいのかよくわからないわけですよ。不時着といえども不時着かもしれないしね。この辺の分け方は、あくまでこれは米軍の資料だと思うんですが、それについての皆さんが県としての確認は、直接されたことありますか、この内容等について。

○金城典和基地対策統括監 私のほうで先ほど不時着、また部品落下等という区分で申し上げましたけど、この区分につきましては、特に米軍にある基準とかそういうものではなくて、あくまで県としての基準という形での整理をとってるところです。

○**山川典二委員** 県としてのこれ、資料ですか、分け方。じゃあ、これ何を根拠に一皆さんの大体の感覚で、こんなふうに分けるっていうのは、ちょっとこれ問題あるんじゃないですか。つまり、民間地に誤って着陸するのはその他ですけど、これは不時着という認識にはならないんですかね。あくまで機器の不備だけではなくて、基地から出て基地に帰るのが通常の運用ですよ。運航ですよ。それ以外のところでやるっていうのはやっぱり、これは考え方として不時着というふうに見てもおかしくないと思うんですがね。その辺は認識いかがですか。この分け方がちょっとよくわからないんですけどもね。定義があるわけでしょ。皆さんがこういうふうに分けた、カテゴリーに分けた。これを少しわかりやすく、簡単でいいですよ、説明していただければいいんですけど。

○**溜政仁参事兼基地対策課長** 先ほど公室長からも御説明がありましたけれども、私どもが不時着というふうに分類しておりますのは、例えば機種一走行しているヘリコプター等がエンジントラブル等の異常で、どっかの地域におりたというところのものは不時着ですね、というふうに分類しております。もう一つ誤って、着地帯と誤ってほかの民間地に着地等をして、またすぐ飛び立っていったというものにつきましては、その他の誤認というか、誤認での着陸ということでその他というふうに分けているところです。

○**山川典二委員** いや、誤って不時着、民間地におりたという情報はあくまで、これどこの情報ですか。情報源は。

○**溜政仁参事兼基地対策課長** 今回のときもそうですけれども、沖縄防衛局を通して米軍からの情報ということになります。

○**山川典二委員** これ誤って民間地におりたかどうかってわからないじゃないですか。もしかしたら、機器だったかもしれないしね。

まあそれはいいですよ。それで先ほど来、何人かの方がいろいろ議論がありましたけども、私もこの委員会に3年前に入って、謝花副知事が公室長時代にですね、米軍との定期的なやっぱり情報交換をしっかりとやるべきだってことをずっと、何回か話をさせていただいておりますが、定期的にですね、情報交換しないと。日米の情報だけではどうもね、これ十分じゃないと思いますよ。皆さんの今のそのカテゴリー—要するにいろんな定義づけをするにしてもね。

だからやはり、防衛に関することは国の所管事項とは言いながらですね、やっぱり今、現実的に、沖縄の中にこれだけの基地があって、米軍基地の負担軽

減、被害を実際、続行してあるわけでありますからね。これはもう少し、県が主体的にですね、米軍の幹部の皆さん、四軍調整官であろうが四軍とですね、幹部の皆さんとの、あるいは事務方の皆さんともですね、意見交換というのをしっかりやるべきだと思うんですが、改めて、お聞きしますが、これやらないんですか。なぜやらないんですか。

○池田竹州知事公室長 四軍調整官含めて、過去には意見交換などもやっております。また、私ども事務レベルでも、例えば海兵隊のG7と特にテーマを定めず、意見交換を昨年度は一応、2回開いております。今年度も、もう少し頻度を上げていきたいと思っておりますけども、開催する方向で考えております。

○山川典二委員 いやですから、去年は年に2回でしょ。これ少なくとも2カ月に1回とかですね、毎月ぐらいあってもいいぐらいのもんですよ。これだけね、今、いろんな問題が出てくるわけでありますからね。ましてやその老朽化してるという、お話もありますよね。そういう軍用機が、今飛び交ってるわけですから、もっと情報をとるべきだと思いますよ。お互いの意見交換をしっかりとやればですね、もう少しいろんな意味で、この何と申しますか、負担軽減の改善策っていうことでね、やれると思うんですよ。

これ具体的にもう少し詰めていっていただけませんか。毎月くらいやるよとか、テーマも決めてやるとかですね、テーマを決めないものもあるかもしれませんが、しっかりやるべきだと思うんですよ。いかがですか。

○池田竹州知事公室長 可能であれば、四半期に1回ぐらいは少なくともやりたいなっていうふうに私も考えておりまして、今後ちょっと頻度を上げる方向で調整していきたいと思っております。

○山川典二委員 ですからその四半期でやるにしても、緊急で何かあったときはすぐにですね、胸襟開いて意見交換ができる、あるいは言いたいことは言えばですね、アメリカっていう国はある意味、民主国家ですから、門をたたけば開きますよ。いろんな意見交換をやっていたきたいんですよ、本当に。言いたいことを言ってくださいよ。そうしませんとこれ進みませんよ。毎回同じように意見書を出して抗議決議をやっても続くわけですからね。通報体制含めて、訓練内容の指導含めてですね、しっかりとやっていただきたいと思っております。終わります。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。
新垣清涼委員。

○新垣清涼委員 原因究明については。

○溜政仁参事兼基地対策課長 今、防衛局に照会中でして、まだそこら辺については回答がないところです。

○新垣清涼委員 再発防止策についてはどうですか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 再発防止策につきましても、県のほうに報告するようにということは求めておりまして、それについてまだ、報告がないというところです。

○新垣清涼委員 田中防衛局長は、米軍からそういう報告を受けているということで、沖合一沖合というか東側の8キロとか、そういう答弁されてますけども、防衛局自体がそういう調査を、要するに、どの機種で、どの機種から一どの機種というか、どの機体からどの部分が落ちたという、そういう検証というか調査は、防衛局自体はやってますか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 防衛局自体が米軍の事故の調査をするという話はちょっと聞いたことがないです。

○新垣清涼委員 皆さんは、この普天間第二小学校に窓枠が落ちたとき、あるいは、今回の後ろの窓が落ちているときね。この機体からこの部分が落ちたんだらうという現物を一現物というか、物、機体のここの部分かというのは確認してますか。前回はそうですよ。見せてもらってるかということ。

要するに、基地の中に入って、その機体からここの部分が落ちましたと。そういう現物見てますか。いや見たか見てないかです。

○溜政仁参事兼基地対策課長 前回の普天間第二小学校のときとかは、そういう説明を受けてないんですけども、浦西中にブレードテープが落ちた際に、謝花副知事が米軍のほうに行った際には、こういうテープだという物を一現物は見せていただきました。

○新垣清涼委員 落ちた物ではなくて、この機体よ、機体。機体のこの部分が落ちて、今こう直しております。この部分が落ちて、テープでも、どこについているものが落ちたという、この機体を僕は見たかということを知っているんです。

○金城典和基地対策統括監 実際この普天間飛行場に入って、この機体のこの部分だという機体の検証はできてない状況です。

○新垣清涼委員 これを米軍に求めるべきだと思うんですけどどうですか。

要するにどの部分から落ちたのかというのはね、見ることによって、この枠が落ちやすいものなのか、さっきから説明のやりとりの中では、緊急時には一どのくらいの力かわかりませんが、押せば外れるという話もあるので、その物がさ、やっぱり皆さん確認しているかどうかですよ。

○池田竹州知事公室長 実際、再発防止策が取りまとめられた際にですね、私どもも、できれば物で確認したほうがわかりやすいっていうのもあります。その辺は今後、求めていきたいと思えます。

○新垣清涼委員 これ防衛局長に対してもですね、皆さんは、やっぱりこういう事故が発生し、特に航空機の場合、窓枠一第二小学校の場合は、ワイヤーがつけられるようになってたとかっていうのは、話ではわかるんですね。ところが、僕、実際落ちてるのを見てないので、どの部分のワイヤーで、どのくらいの強さか、強度があるのか。それも見てないからわからないので、皆さんは、せめて皆さんは防衛局に対して、一緒にそれ確認してほしいということを求めるべきじゃないかと思うんですが、どうでしょう。

○池田竹州知事公室長 そういったことも含めて今後、検討していきたいと思えます。

○新垣清涼委員 ぜひですね、そういう事故が発生したときには、防衛局も一緒になって、まず物を見せてもらうということ。そして防衛局には、基地提供しているのは日本政府なんだから、防衛局が責任を持って、どこに落ちたかというのをはっきりさせるために、防衛局に調査せいということを求めるべきだと思うんですよ。

米軍が出してこなければ、防衛局に対して、あなた方が調べて報告せいとい

うことを求めるべきだと思うんですけど、どうでしょうか。

○池田竹州知事公室長 先ほども、統括監、私のほうからありましたが、米側の第1報と第2報で、ちょっと私ども落下場所については、明確にならない部分があると考えております。その辺きちっとですね、人命にかかわることでもありますので、調査解明を求めていきたいと思えます。

○新垣清涼委員 だから米軍にそれを求めているんじゃなくて—もちろん米軍に求めないといかんわけですけども、それと同時に、防衛局に対してもですね、防衛局に対しても、提供している責任者として、県民、国民の命を守るためには、そういう事故が発生したときのね、対処策、原因究明とそして再発防止策は、防衛局一緒に米軍となってやるべきですよ。それを求めています。それを求めています。

PFOS、PFOAの関係でもね、米軍は一あれは調査させているわけですよ、防衛局を通して。この間もらいましたけども、調査させているのに、何か皆さんと一緒に、できれば一緒にそういう調査するときには、同行させてほしいということを常に求めています。以上です。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。
瀬長美佐雄委員。

○瀬長美佐雄委員 ちなみに通報の手続の定め、これにのっとってないという認識。米軍、あるいは防衛省、防衛局。そこは皆さん、その角度からの追及とそれに対する対応、反応、どういう認識ですか。

○池田竹州知事公室長 先ほども述べましたけども、97年の合同委員会合意の在日米軍に係る事件・事故発生時における通報手続に該当する今回の事故だと、私どもは考えております。極めて重大な事故というふうに考えております。それがなぜ通報されなかったのか。

まず、少なくとも、帰投後、気づいたのであればその時点で防衛局、防衛省に連絡が行くというのがこの手順です。それが守られなかった経緯については、防衛省としても問題であるということで今、原因解明を求めているというふうに聞いております。私ども、さらに防衛省からの連絡に1日を要したという点につきましても、本来、例え不確かな情報であっても、そういう事故に係る情報は速やかに提供すべきであると考えておまして、沖縄防衛局に対しても速やかな情報提供を求めたところでございます。

○瀬長美佐雄委員 米軍からの最初の通報で、情報に不明があるからということを経由に1日延ばしたと。じゃあ、その不明があったという中身。それが解決できたから通報に至ったのか、その具体的な、何が問題で、不明で、というような説明を求めるべきだと思いますが、そこら辺は確認できてますか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 米軍と日本政府が1日ずつ通報がおくれたということの原因についても、今確認中であります。

○瀬長美佐雄委員 ある意味で、合同委員会で決めたことが現実的な運用では、守らなくていいんだというふうなことは絶対許せないという立場で、直ちに、内容が不明であれば、概要ということだけでも一先ほど、公室長に述べてましたが、速やかにやれと。やるべきだと。それは約束させたんですか、少なくとも防衛省を含めて。

○池田竹州知事公室長 約束といいますか、副知事、そして知事のほうから抗議という形で、的確、迅速な通報を改めて検証した上で、求めているところです。

○瀬長美佐雄委員 あと結局、県は重大事態、当然通報義務があるという認識。ところが、可能性として米軍は通報するに値しないというふうなことなのかの確認。同時に、飛行停止を求めないと、この程度だから、ということで日本政府は求めない。この2点については、対応した反応、認識、どうなんですか。

○池田竹州知事公室長 先ほど、防衛大臣のコメントをちょっと紹介させていただきましたが、被害がないから飛行停止の必要がないっていうのは、我々県民からしたら、到底受け入れられるものではないというふうに考えております。

通報につきましても、米側が防衛省への通報がおくれた原因につきましても、これは防衛省のほうでも確認するということですので、きちっと検証した上で、その原因がどこにあったのかを把握した上で、再発防止を求めていきたいと思っております。

○瀬長美佐雄委員 今回の実態で当然当事者の米軍に対する抗議のあり方として、呼び出しをしたが応じなかったのも、県が行かざるを得なかった。ここら辺のやりとり状況は。そういう中でのどういう反応だったのか伺います。

○金城典和基地対策統括監 基本的に米軍に対しても来庁するようという形で、沖縄県のほうから要請をしております。ただ米軍からは、やはり人的な被害がなかったということで、県からの抗議には応じるけど、まあ基地内での抗議であれば受けるという回答が、県のほうに来ないという実情がございましたので、出向いて抗議をしたという流れになっております。

私のほうからもやはり、こういった一今回、洋上での墜落という報告は受けている。だけど実際、落下ですね。普天間飛行場、ごらんいただければわかると思うんですけど、やはり住宅地に囲まれてるという現状がございます。こういった部品落下については、結局、どこに落ちようが、民間地に落ちる可能性が非常に高いと。それはぜひ認識していただきたい。これがたまたま洋上だからということではなくて、落下自体が問題なんだという形で私のほうから強く申し入れてあります。

ですから、そういったことがないように、部品の点検について、さらに人員です。人員についても、そういった訓練のレベルが、整備のレベル、それは常時維持して、そういった事故がないように努めていただきたいという申し入れはしております。

○瀬長美佐雄委員 先日、防衛局に抗議に伺いましたが、やりとりで毎度毎度そうですが、要請しますと。日本政府の立場一先ほど、ここの委員会の中でも、県は要請するだけかと。日本政府自体が、お願いしかできなくて、再発防止もお願いしかできないということでは、また今後も繰り返されるかというものはっきりしてますよ。他国の地位協定とのかかわりで、こういう事態があり得るのかと。事故を起こした、その際に、その国のコントロール下に置かれているというのが、まとめ的な総括的な表現ですが、ここを踏まえるならば、今後、本当に起こさせないということであれば、少なくとも調査して他国並みの地位協定の適用を実現する以外には、もう防止できないということだろうと思うんですよ。

その点で、全国知事会と連携をさらに密に強化して、具体的にかち取るという点でどういう動きをしているのか。あるいは、していこうとしているのか伺います。

○池田竹州知事公室長 7月に開かれました全国知事会議におきまして、お時間をいただきまして、玉城知事から他国調査も含めた、ちょっと簡単な報告をさせていただきました。その報告後、質疑応答ということで、基地のない県の

知事さんたちからですね、地位協定の改定はやはり必要だというような意見もあり、知事会としても引き続き一昨年ですかね、決議してはいますが、改めてちょっと取り組みについて、検討していくというふうになったと聞いております。私ども知事会の特に事務局とも連携しながらですね、より一層改善に向けた取り組みをまともにやっていたらというふうに考えております。

○瀬長美佐雄委員 今の実態は異常です。文字どおりやりたい放題されていて、負担軽減といいながら、爆音騒音はふえている現実。今言うお願いしかできないという日本政府の限度、限界。主権が、放棄された状態ではないかと。

ですから全国知事会の中でも、沖縄の問題じゃなくて、どこでも起こり得ること。日本自体の主権が、それこそ脅かされ続けていると。この状態打開に、全国知事会挙げて、本腰入れて取り組もうではないかと。そこまで認識が至っているのか、あるいは玉城デニー知事自体もそういう認識で取り組んでいくということなのか。私は本当に防衛大臣もそうですが、主権国家としてのね、誇りや自覚や国民、県民の命を本気に守るということ自体が欠如している。思うんですよ。そこはぜひ可能な、中でも全国知事会の決議を本当に実現するという点でどう進めるのかと。そこを含めてお願いします。

○池田竹州知事公室長 知事会が、地位協定の見直しの決議をしたというのは大変重く受けとめています。全会一致というのも非常に大きい、初めての決議であろうかと思えます。

基地問題はこれまでどちらかというところ、米軍基地のある涉外知事会というところで議論するっていうのが、何となく暗黙の了解といいますか、そういう意識もあったやに聞いてます。それが全国知事会そのもので、きちっと決議していただいたというのは非常に大きく、また、ことし7月の知事会での議論も、米軍基地がないから関係ないではなくて、地位協定の改定に向けて、幾つかの知事さんが積極的な意見を述べられた点については、地位協定の改定というのは、基地のあるなしにかかわらず、各県の知事も必要だというふうな認識に立たれつつあるのかなと。さらに、来年に向けてですね、より知事会と連携を深めて、改定実現に向けた取り組みを進めていければというふうに考えています。

○瀬長美佐雄委員 ですから、日米地位協定の改定は、主権のかかった重要な問題だという認識のもとに進めるのか、状況改善のための手段というか、その違いは大きいと思うんですよ。

そこら辺でいうと、現在の状況、認識で主権が行使できない同盟関係なんだ

という認識。少なくとも主権国家という定義、あるいは評価について、少なくとも県としても現状は主権国家と足り得ないと。ですから地位協定改定の流れの中で、主権を取り戻すということではないかと、私はそういう認識ですが皆さんはどうなのでしょう。

○池田竹州知事公室長 航空特例法などに見られるように、国内であれば自衛隊機も遵守するべきものが、米軍機は除外されてる状況っていうのは、一刻も早い改善が必要だと思っております。そのような点も踏まえてですね、ぜひ早期の地位協定の改定実現に向けて、引き続き、全国知事会あるいは渉外知事会、軍転協などとも連携して取り組んでいきたいと考えております。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 質疑なしと認めます。

以上で、米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故についての質疑を終結いたします。

説明員の皆さん、大変御苦労さまでした。

休憩いたします

(休憩中に、説明員退室。その後、議題の追加について協議した結果、追加することで意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

お諮りいたします。

米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故についてに係る意見書及び抗議決議については、休憩中に御協議いたしましたとおり、議題に追加し、直ちに審査を行いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故についてに係る意見書

及び抗議決議の提出についてを議題といたします。

休憩いたします。

(休憩中に、意見書及び同抗議決議の提出の可否、文案及び提案方法等について協議した結果、意見書及び同抗議決議を提出すること、提出者は本委員会の全委員とし、本委員会に所属しない無所属の議員にも呼びかけること、提案理由説明者は委員長とし、要請方法は、県外は文書送付、県内は直接要請とし、議員派遣については議会棟においてその趣旨を直接要請することを含め、本委員会の委員を派遣するよう議長に申し入れることで意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

お諮りいたします。

議員提出議案としての米軍CH53E大型輸送ヘリコプターからの窓落下事故に関する意見書及び同抗議決議については、御手元に配付してあります案のとおり提出することとし、提出方法等については、休憩中に御協議いたしましたとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

以上で、予定の議題は全て終了いたしました。

委員の皆さん大変御苦労さまでした。

本日の委員会は、これをもって散会いたします。

沖縄県議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

委員 長 仲宗根 悟